

運動部活動における指導の過熱化・管理化に関する一考察

A consideration about the overheat and the control in the process of training in sports club activities.

1K09B170-6

平川智也

指導教員 主査 友添秀則先生

副査 太田章先生

【本研究の動機】

私は中学、高校時代に運動部活動(以下「部活動」)に所属していたが、そこでの活動の大部分はただ与えられたメニューをひたすらにこなす内容だった。我々生徒が主体的になって考え活動する機会が部活動にはなかった。試合に勝つことだけを目標に練習をこなしていた大部分の経験は教育的な活動だったとは思えない。

一方で高校2年の時に転任してきた指導者の指導は、ただ練習メニューを与えるこれまでのそれとは違うものであった。生徒たちが困難にぶつかっている時にこそ、指導者が簡単に手を差し伸べるのではなく、生徒たちがどのようにして自らで対処するのかを大事にし、生徒が自主的に考え行動できるようにしていく指導であった。その指導者に自分は強く影響を受け、人間的に成長できた。大学に進学し、スポーツ教育学を学ぶうちに、高校2年時以降の部活動はそれまで以前の部活動とはどのように異なっていたのか、高校2年時以前の部活動では、なぜ教育的な指導が受けられなかったのか明らかにしたいと考えるようになった。そこで部活動における指導の過熱化、管理化に着目し、その問題の原因を検討し、解決策を提案する。

【本研究の目的】

本研究では、まず戦後の部活動の制度的位置づけの変遷を明らかにし、次に部活動における指導の過熱化、管理化の実態と原因を明らかにする。そして最後に指導の過熱化、管理化の解決策を提言するのが目的である。

【本研究の方法】

本研究は、「運動部活動の在り方に関する調査研究報告(中学生・高校生のスポーツ活動に関する調査研究報告)」や関連する新聞や文献の購読による文献研究によって行う。

【研究のまとめ】

第1章では、戦後運動部活動の制度的位置づけの変遷を概観することで、「スポーツの生活化」(神谷、2011. p. 74)という方針を転換させ、部活動が競技化していき、対外試合基準が緩和していったことを把握していった。また対外試合基準の緩和に伴って、部活動は選手の養成・選抜を目的とし、指導の過熱化が進み、行き過ぎた練習や暴力的な行為があったこともわかった。またクラブ活動の必修化に伴い、部活動が教育課程外に位置づけられ、対外試合基準がさらに緩和していった。さらに2008(平成20)年、2009(平成21)年に改訂された中学校・高等学校学習指導要領において初めて、部

活動が学校教育の一環として教育課程との関連を図ることが明記された。

第2章では部活動における具体的な事例をもとに指導の過熱化、管理化の問題を明らかにした。指導者による指導の過熱化、管理化により、長時間の練習を行われていることや非科学的で根性主義的な練習を生徒たちに機械的に反復させ、生徒たちは肉体的、精神的に疲れがたまり、死亡してしまった事例を検討した。そして指導者が勝つためだけに合理的な術を生徒たちに教え込み、その指示に機械的に反応するように管理することで、生徒は主体的に頭でプレーを判断、選択する機会を制限され、リスクを恐れ、自分らしいプレーをすることが出来なくなる危険性が示唆された。また指導の過熱化、管理化を引き起こしている原因として、指導者の専門的技術指導力の不足していること、外部指導者の役割が明確でないことや競技の結果と指導者の評価が結び付きやすいことが挙げられた。

第3章では、指導の過熱化、管理化という問題解決に向けて提言をした。まず指導の過熱化、管理化を引き起こしている指導者について、部活動とは誰のために存在するのかを考え、「指導者のあるべき姿」と「部活動の意義」を明らかにした。そして生徒が部活動において自主的に活動を展開することができ、生徒の主体性を十分に発揮していくために「DUOリーグ」を参考に、指導者は生徒が主体的にスポーツに取り組む環境を如何にして作り、生徒が主体性を育むように導いてくべきであることを明らかにした。さらに外部指導者が指導の過熱化、管理化をもたらすことや「顧問教員とのズレ」をなくすために、外部指導者の役割を明確にするべきであり、外部指導者が顧問教員と同様に「部活動の意義」を理解するべきであることを提案した。

結章では、本研究のまとめと部活動における指導の過熱化、管理化に対する具体的な取り組みや今後の課題を検討した。部活動に関する制度において部活動の位置づけを法規上で明確化し、部活動の意義や指導者の役割を明記したうえで、部活動の指導において免許制度を設けることを提案した。今後の課題として免許制度を導入するうえで校務で忙しい顧問教員が新たに免許を取得するためにはどのようにするかを検討すべきである。またどのようにして部活動が地域社会と連携していくべきかを明確にすることも今後の課題である。